

2022年 年度末を迎えて

1月10日には、本校の地元鳥羽市の成人式に参列する機会を得ました。地域の成人の若い方々が積極的に式を運営され、厳粛な中にも新鮮さにあふれた式であり、感銘を受けました。赴任をして一番に実感しているのは、地域の方々の温かさです。鳥羽商船は140年の歴史がある学校のため、地域には卒業生が数多くおいでです。そのため、地元のご理解が非常に深く、船舶海洋工学の研究や新しい海洋の科学技術開発を受け入れる環境が整っている非常に恵まれた学校です。本校のように、豊かな自然環境と歴史・文化の中で、先端技術を学べる環境は大変得難いとの感を益々深くしています。2023年4月には、私学の神山まると高専が開校予定です。「奇跡の田舎」と称される徳島県神山町に設置され、神山町を学びのフィールドに活用した教育を展開するとしています。この高専が山国の学びの場とすれば、本校は海国の学びの場です。

本校は今、練習船「鳥羽丸」を新しくしようと計画しています。気候変動による自然災害や南海トラフ地震と津波などの危機感が高まる中、数年後に完成を計画している練習船は災害支援機能を備えた新しい「鳥羽丸代船」とする計画です。防災・減災を意識した施設整備という側面では、学校自体も地域の防減災・備災の場所としての役割・機能も合わせ持ち、学生や教職員が安全安心に、快適に過ごせることはもちろん、船や海とともに地域に親しまれる連携するキャンパスを目指しています。

鳥羽商船の2学科を卒業して准学士の称号を、さらに専攻科の海事システム学専攻と生産システム工学専攻を修了し学士の学位を取得する学生には、どこに行ってもここで勉強した成果を生かし、海技者、技術者として海事産業と「Society5.0」の成熟社会に貢献する人材になっていただきたい。本校目指すは、人づくりを通じて海づくりをする「マリンリゾート・コアキャンパス」です。

G7伊勢志摩サミットの開催地となった鳥羽市周辺は、伊勢湾の出口に位置して海運・海事や水産、観光に関する多くの事業、三重県水産研究所や鳥羽市水産研究所、三重大学水産実験所、鳥羽水族館、海の博物館、独立行政法人水産研究・教育機構（増養殖研究所）などがあり、船と海に関する勉強をしたい学生には絶好のロケーションです。お隣の伊勢市周辺には先端技術を擁する企業の事業所群もあり、今後も近隣の大学や地元企業、行政等と連携して、地域との持続可能な共生・共創を図る高等教育機関として取り組みを進めていきます。

15歳の進路の選択肢としての高専は、都市部の中等教育と進学状況を見ておりますと昨今とても意義深くなっていると思います。鳥羽の地で成人し、人生における貴重な友をつくり、海と船、地域と交わり、おおいに成長し人生におけるおおきな飛躍、ジャンプをしてください。保護者の方々におかれましては、本校に温かいご協力とご支援を賜り感謝申し上げます。就職、進学、また学校生活において国内外に誇れる環境づくりをめざすキャンパスの実現と人づくりに向かって邁進して参ります。

末尾になりましたが、この1年、学生の皆さんはよく頑張りました。今年度もあと少しですが、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染症への対応が続いています。3密を避ける、不織布のマスクをする、距離をとる、換気をする、毎朝の体調管理などの基本的予防策を各自の在所、ご家庭内においてもしっかりと実行してください。

これから、進級、卒業・進学、また乗船実習に向かう学生諸賢に伝えたいこと。最近の新聞で、97歳の現役の看護師さんが「すごいことは何もない。ただ仕事に誇りを持って働いてきただけ」と話され、「自分で考え、自分の道を歩いてきた。」と。思いやりと志をもって前に進みましょう。

（校報から）